

平成26年度第1回  
宮城県スポーツ推進審議会

平成26年10月27日（月曜日）

## 平成26年度 第1回宮城県スポーツ推進審議会会議録

I 日 時 平成26年10月27日（月）午後1時00分から

II 場 所 県庁9階 第一会議室

III 委員構成数 15名

IV 出席者

〔委員〕

国立大学法人宮城教育大学教授 前田順一

川崎町教育委員会教育長 佐藤芙貴子

宮城県高等学校体育連盟会長（宮城県利府高等学校校長） 高橋昭博

宮城県中学校体育連盟会長（仙台市立鶴が丘中学校校長） 朝間康子

仙台市立八木山小学校校長 小林好美

宮城県スポーツ少年団本部長 安中俊作

宮城県スポーツ推進委員協議会会長 平塚和彦

NPO法人アクアゆめクラブ理事兼クラブマネージャー 木間奈津子

株式会社河北新報社編集局スポーツ部長 日下三男

株式会社ケーヒン 富士原和人

以上10名

（欠席委員）

学校法人朴沢学園仙台大学客員研究員

（独立行政法人日本スポーツ振興センター） 阿部 篤志

公営財団法人宮城県体育協会常任理事・競技力向上委員会委員長 角田康夫

国立大学法人東北大学大学院教授 永富良一

宮城県レクリエーション協会事務局長 山内直子

元株式会社ベガルタ仙台代表取締役社長 白幡洋一

以上 5名

〔事務局〕

教育長 高橋 仁，教育次長 吉田 計

参事兼スポーツ健康課長 松坂 孝，スポーツ健康課スポーツ振興専門監 武者光明

同課長補佐（総括担当） 安住浩志，同主幹（管理調整班長） 菊池直実

## V 会議経過

安住浩志課長補佐（総括担当）の司会により、下記のとおり会議を進行した。

### 1 開会

○司会 それでは、本日はお忙しい中お集まりをいただきまして、ありがとうございます。

初めに、会議の成立について御報告を申し上げます。

本日の会議には、委員総数15人のうち、ただいま9人ですが、10人の方々に御出席をいただく予定といたしております。これは、スポーツ推進審議会条例に規定いたします会議の開催要件であります委員の半数以上の出席の要件を満たしておりますので、会議が成立しておりますことを御報告いたします。

また、当審議会は、宮城県情報公開条例の規定により、原則といたしまして公開することになっておりますので、あらかじめ御了承願います。また、議事録は、県のホームページなどで公開することになりますが、議事録の内容につきましては御出席の委員の皆様事前に御確認をいただきます。

それでは、ただいまから平成26年度第1回宮城県スポーツ推進審議会を開催いたします。

### 2 あいさつ

○司会 開会に当たりまして、高橋教育長が御挨拶いたします。

○高橋教育長 皆様、改めましてこんにちは。

会議のぎりぎりまでちょっと、こちらに来るのが遅くなってしまいまして、申しわけありません。実は、これから申し上げる挨拶文をちょっと最後まで考えておりまして、それでちょっと遅くなってしまいました。

皆様には、日頃からスポーツをはじめさまざまな教育施策の推進について御支援と御指導を頂戴しておりますこと、まずもって御礼申し上げます。

本県では、「スポーツを通して活力と絆のあるみやぎを創ろう」ということを理念として、平成24年の12月に宮城県スポーツ推進計画を策定いたしました。それに基づいて、各種の施策に取り組んでいるところでございます。

そういった中で、2020年の東京オリンピックの開催が決定をしまして、今日、参考資料

ということで3点挙げておりますが、これをはじめ来年度、これは全国中学校の体育大会、平成29年度にはインターハイが南東北で開催される、そして、今申し上げました東京オリンピック、2020年、平成32年でありますがサッカーの開催が宮城のグランディ21でやるということが予定されております。そういったことで、大変大きなスポーツイベントが今後続けて、この宮城で開催されるということになっております。そういった中で、この平成24年の12月に策定しましたスポーツ推進計画、これを着実に進めていかなければならないなというふうに改めて認識をしているところでございます。

本日は、この推進計画の前期のアクションプランということで、それに関しまして平成25年度の取り組みについて我々が自己評価したものを皆さんに検討していただく、アドバイスをいただくというふうに考えているところでございます。このお示しする評価資料であります、推進計画の策定自体がかなり大がかりなものでありまして、その評価については、今回初めて行うということになります。あらかじめ数値目標として出していたものもございしますが、まだ数値化して結果が出ていないもの、あるいは数値化するのにはなじまない部分もあるというふうに考えております。そういった意味では、本日お示しするものがまだまだ完璧とは言えない部分もございしますが、まず平成25年度の取り組みについて皆様にお示しをし、この評価自体についても御意見をいただきながら改善を加え、スポーツ推進計画の着実な実行とそれぞれの進行管理について適切な評価ができるように、我々としても取り組んでまいりたいと考えております。

そういった意味で、本日の審議会での皆様からの御意見は一つ一つを貴重なものとし、我々の施策の展開にぜひ活かさせていただきたいと考えおりますので、よろしくお願いを申し上げます。

この計画では、目指す姿として「県民一人ひとりが様々な形でスポーツを楽しみ、地域や社会が強い絆でつながり、東日本大震災を乗り越え、活力に満ちた幸福で豊かなみやぎ」、これを実現するというにしております。我々、その実現に向けて精いっぱい頑張ってまいりますので、どうか皆様から忌憚のない御意見を頂戴しますようお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。

本日はよろしくお願いたします。

#### <安中委員到着>

### 3 委員及び事務局主要職員紹介

○司会 本日は今年度初めての審議会でございまして、新しく御就任された委員の方々もいらっ

しゃいますので、委員の皆様を改めて御紹介をさせていただきたいと思います。お手元の名簿の順に御紹介をさせていただきたいと思います。

前田順一委員でございます。

- 前田委員 どうぞよろしくお願いいたします。
- 司会 佐藤芙貴子委員でございます。
- 佐藤委員 よろしくよろしくお願いいたします。
- 司会 高橋昭博委員でございます。
- 高橋委員 よろしくよろしくお願いいたします。
- 司会 朝間康子委員でございます。
- 朝間委員 どうぞよろしくお願いいたします。
- 司会 小林好美委員でございます。
- 小林委員 よろしくよろしくお願いいたします。
- 司会 安中俊作委員でございます。
- 安中委員 お世話になります。よろしくお願いいたします。
- 司会 平塚和彦委員でございます。
- 平塚委員 どうぞよろしくお願いいたします。
- 司会 木間奈津子委員でございます。
- 木間委員 木間です。よろしくお願いいたします。
- 司会 日下三男委員でございます。
- 日下委員 日下です。よろしくお願いいたします。
- 司会 富士原和人委員でございます。
- 富士原委員 富士原です。よろしくお願いいたします。

次に、事務局主要職員を御紹介いたします。

ただいま御挨拶しました高橋 仁教育長でございます。

- 高橋教育長 改めまして、よろしくお願いいたします。
- 司会 吉田 計教育次長でございます。
- 吉田教育次長 どうぞよろしくお願いいたします。
- 司会 松坂 孝参事兼スポーツ健康課長でございます。
- 松坂参事兼スポーツ健康課長 よろしくよろしくお願いいたします。
- 司会 同じくスポーツ健康課、武者光明スポーツ振興専門監でございます。

○武者スポーツ振興専門監 よろしくお願ひします。

○司会 同じくスポーツ健康課，菊池直実管理調整班長でございます。

○菊池管理調整班長 よろしくお願ひします。

○司会 同じくスポーツ健康課，鈴木秀利スポーツ振興班長でございます。

○鈴木スポーツ振興班長 鈴木です。よろしくお願ひいたします。

○司会 私，本日司会のほう務めさせていただいております，スポーツ健康課総括担当の安住と申します。よろしくお願ひいたします。

それでは，ここでスポーツ審議会前田会長より御挨拶をいただきたいと思ひます。

前田会長，よろしくお願ひいたします。

○前田会長 こんにちは。このたび会長を務めさせていただきます宮城教育大学の前田と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

昨年度からスタートしました宮城県のスポーツ推進計画の，平成25年度から29年度の前期アクションプランの昨年度は1年目が終わりました，今年2年目に入ってさまざまな分野で施行がスタートしているわけですが，この評価についてはそれぞれの視点で細かくやっ  
ていく必要があるなというのを，最近つくづく感じているところです。

実は，私，附属幼稚園で幼稚園の園長を昨年度からしておりまして，来年度から子ども・子育て支援新制度というのが4月から始まります。それで，幼稚園教育の質的向上というのがその中で大きな目標になっているわけですが，幼稚園教育の質的向上というのは何かと考  
えたときに，附属幼稚園を中心とした国公立の幼稚園では，自由な子どもたちの遊びを中心にした保育というのをしてしまして，外から見ると一見ただ遊ばせているだけというようなふうに見えてしまうんですね。

そういうところで質的な向上というのを考えるときに，実は体育の分野で非常に示唆に富む研究がありまして，それは全国の幼稚園で外部講師を招いて運動指導をしたり，それから園中の体育の専門の教員が運動指導という時間を設けて運動している園の園児の運動能力と，何も運動指導をしていない園の園児の運動能力を比べたときに，何もしていない園のほうが運動能力が高いという結果が出ているんですね。それで，運動しているところも週5回とか7回とか，頻度が高くなればなるほど運動能力は低くなっているという結果が出ているんです。

これ，一見運動指導という質の高い教育をしているように思えるんですけども，子どもたちにとっては主体的なというんですか，自分から出てきた遊びというのが非常に大きな運動の場になっていて，そこで培われているものを専門家が一斉指導という立場でやるということで，

子どもたちが受け身になってしまうんですね。そうしますと、運動の機会も少なくなりますし、やりたくないことをやらされるというような思いもあって、実際の成果として見ると子どもたちがせっかく自由に遊んで運動能力を高めているのを、一斉指導という運動指導をしてしまうとじゃましてしまうという結果になっているという現実です。

ですから、宮城県のこの推進計画も多岐にわたるわけですが、ただやっていたらいいというものじゃないなということ、その幼稚園の例なんかを見てつくづく感じますね。こちらのほうで何かお膳立てをしてやらせるということよりも、いかに現場の方たちの動きやすいような形をつくり上げて、現場の人たちが本当に必要とすることをこちらのほうでしっかり環境づくりをするというのがとても、具体的に何かをするということではなくて、それ以上に大事なことなんじゃないかなということ、つくづく最近感じています。

そういう意味で、今日は昨年1年間スタートをしたアクションプランの多岐にわたる項目について、進行状況を先生方のいろいろな視点から見ていただいて、今後実効性のあるものにしていくような形でしていけるといいなと思います。どうぞ、よろしく願いいたします。

○司会 前田会長、ありがとうございました。

大変恐縮ではございますが、高橋教育長は所用のためこれもちまして退席をさせていただきますので、御了承いただきたいと思います。

○高橋教育長 申しわけありません。よろしく願いいたします。

○司会 それでは、議事に移りたいと思いますので、これより先は前田会長のほうに議事進行をお願いいたします。

前田会長、よろしく願いいたします。

#### 4 議題

##### 前期アクションプランによる平成25年度事業の成果等について

○前田会長 それでは、議事を進めたいと存じます。

4の前期アクションプランによる平成25年度事業の成果等について、事務局から説明をお願いいたします。

○松坂参事兼スポーツ健康課長 それでは、まず最初に私のほうから、前期アクションプランについての説明に入る前でございますが、今回新たに4名の委員の方が就任をされたというようなこともございますので、お話がありました平成24年に策定をしました本県のスポーツ推進計画の概要について、改めて簡単に御説明をさせていただきます。

それでは、着座にて説明をさせていただきます。

それでは、資料1の冊子の「スポーツ推進計画」のほうを御覧ください。冊子の「スポーツ推進計画」の1ページを、まずお開きを願いたいと思います。

「1 策定の趣旨」でございますが、最後の段落に記載をしておりますとおり、本計画は「将来における県民のスポーツの目指す姿や目標を明らかにし、その実現に向けた施策を優先的かつ計画的に進めていく」というふうなためのものでございます。

「2 計画の位置づけ」であります。本計画は平成23年に公布されました国のスポーツ基本法の第10条に基づき策定されたスポーツ推進計画でありまして、「宮城の将来ビジョン」や「宮城県教育振興基本計画」との一体性に配慮しながら、「宮城県震災復興計画」を踏まえ策定されたものでございます。

「3 計画の期間」につきましては、平成25年度から10年間の34年度までの期間となっております。

それでは、少し飛びまして28ページをお開き願います。

28ページ「第3章 本県スポーツの理念と基本姿勢」であります。これも教育長の挨拶にもありましたけれども、理念としましては「スポーツを通して活力と絆のあるみやぎを創ろう」を掲げておりまして、10年後の本県スポーツの目指す姿、繰り返しになりますが「県民一人ひとりが様々な形でスポーツを楽しみ、家族や地域社会が強く絆でつながり、東日本大震災を乗り越え、活力に満ちた幸福で豊かなみやぎ」というふうなものを設定してございます。

続いて、29ページをお開き願います。

県が取り組む基本姿勢でございますが、御覧の4つの項目を掲げております。まず「県民が主体となるスポーツの推進」であります。これは2段落目に記載がありますとおり、「県民一人ひとりが主体となり、スポーツを通して自分たちの地域をどうするか考え、自発性を持って安全にスポーツに親しめる環境づくりを構想し、それを行政がサポートする」というふうなことにしております。

次に「連携と協働」でございますが、これは「国、県、市町村と地域スポーツクラブ、学校、スポーツ団体、NPO、企業などが組織の違いを越えて課題を共有し、連携、共同体制を強化していく」というふうなことでございます。

次に、「役割の明確化」であります。 「住民に最も近い市町村」が、「みずからの責任と判断によるスポーツを通したまちづくりを一層進めていくことができるよう、県はその取り組みを支援していく」というふうなことでございます。

最後に、「宮城の特色を活かす」でございますが、「本県はサッカーや野球、バスケットボール等のプロスポーツチームの本拠地が集積しているという恵まれた環境」にあります。また、大学、病院や高度な研究機関、そして海、山、川などの自然環境にも恵まれております。これらの特色を活かしていくというふうなことでございます。

続きまして、31ページを御覧願います。

31ページ、「第4章 施策の展開」の「2 施策の全体体系」でございますが、先ほど御説明をしました理念の実現に向けまして、実施する施策の体系について表にしたものを記載しております。

施策の柱としましては、大きく3つを掲げておりまして、それぞれに目標を設定し、具体的な取り組みの基本方向を明確にしながらい計画を推進することとしております。

「施策の柱Ⅰ 生涯にわたるスポーツ活動の推進」につきましては、「子どものスポーツ」「働く世代のスポーツ」、そして「高齢者のスポーツ」と3つのライフステージに区分し、あわせて9つの基本方向に基づき、各世代に応じた具体的な取り組みを進めていくこととしております。

「施策の柱Ⅱ 競技力向上に向けたスポーツ活動の推進」としまして、「国際的なスポーツ大会・国体等で活躍できる人材の育成」などの2つの基本方向に基づき、取り組むこととしております。

そして、最後「施策の柱Ⅲ スポーツ活動を支えるための環境づくりの充実」では、「地域のスポーツ活動の充実」や「指導者等の育成と連携」、「プロスポーツや企業・大学と地域スポーツの好循環」などの11の基本方向に基づきまして、取り組むこととしております。

最後になりますが、かなり進みます。73ページまでお進みいただきまして、73ページを御覧願います。

73ページには、「第5章 計画の推進」につきまして、本計画の推進については、これも教育長の挨拶にもありましたが、本日御審議をこれから賜ります5カ年のアクションプランの策定や審議会による進行管理を行うこと、というふうなことがまとめられてございます。さらに、関係機関・関係団体等の役割分担等について記載をしているところでございます。

以上、本当に簡単ではございますが、県のスポーツ推進計画の概要について改めてお話しをさせていただきました。

私からは以上でございます。

それでは、続いてアクションプランについて御説明させていただきます。

○武者スポーツ振興専門監 前期アクションプランによる平成25年度事業の成果につきまして

は、私、武者のほうから御説明させていただきます。

それでは、ちょっと座って説明させていただきます。

まず、前期アクションプランについてでございますが、お手元の資料3、こちらのほうの資料ですね、2ページ目を御覧ください。2ページ目の最初、「策定の趣旨」でございます。これは、先ほど課長のほうから御説明申し上げました（推進計画に基づいて実施する）「具体的な取り組みやその成果の数値目標を示し、その着実な実施と進行管理を図っていこうとする」ものでございます。計画の期間としましては、平成25年度から平成29年度の5カ年としております。

このアクションプランにつきましては、昨年度のこの審議会で御審議いただいておりますので、個別の事業等の説明のほうは割愛をさせていただきますけれども、6ページ目以降に個別の事業の進行管理などを記載しております、こちらのほうに平成26年度の当初予算の額などを盛り込む、こういった改定を行っているものでございます。

続きまして、この「前期アクションプランによる平成25年度事業の成果と評価」につきまして、先ほど御説明いたしました施策の柱ごとに資料の3-2、これに基づいて御説明を申し上げたいと思います。資料3-2のほうを御覧ください。

まず最初のページ、「施策の柱Ⅰ 生涯にわたるスポーツ活動の推進」、そのうち「子どものスポーツ」についてです。下のほう、施策の評価になりますが、これにつきましては「概ね順調」としております。その理由としましては、目標指標等についてでございますが、最初の黒ポツになります「体力合計点」、これは全国体力・運動能力調査という小学校5年生、中学校2年生を対象とした調査がございまして、その結果を得点化したものであります。平成25年度は、中学校2年生の男子が全国値を上回り、達成度は「A」となっておりますが、その他につきましては全国平均を下回る結果となっております。しかしながら、達成度につきましては、いずれも90%台であり、達成度「B」というふうになっております。

宮城県における小中高の体力・運動能力調査結果につきましては、資料の4という冊子で取りまとめておりますので、後ほど御覧いただければというふうに思っております。

また、その下になりますが「運動習慣確立のため、地域と連携して運動やスポーツをする機会を創出しているか」につきましては、小学校、中学校ともに全国値及び目標値を下回っており、達成度は「C」となっております。

運動部活動の加入率につきましては、平成24年度に比べ中学校は男女とも当初の数値より減少しております。高等学校は男女とも増加しておりますが、目標に対する達成率は全て90%

を超えておりますので、達成度は「B」というふうになっております。

次のページにつきまして、事業の成果についてですが、概略を申し上げますと大学や小・中・高等学校の体育部会などの方々に構成する「スポーツ関係団体等子どものための体力・運動能力拡充合同推進会議」、こういった会議を年3回開催いたしまして、子どもたちの体力向上について目標の確認や新規事業の実施について協議を行っております。

また、運動習慣確立の観点から、県内全ての小学校が参加できる「『Web』長なわ八の字跳び大会」というのを、昨年度より試験的に実施しております。

以上のとおり、各事業の取り組みにより一部の目標の達成度に「C」という項目がございますが、「体力合計点」や「運動やスポーツが好きな児童生徒の割合」などにつきましては達成率90%を超え、「A」または「B」に区分されておりますことから、施策評価としましてはおおむね順調と判断いたしました。

その下の欄、今後の対応についてですが、「子どもの体力・運動能力向上プロジェクト会議」、「体力・運動能力向上に関する講習会」、「体力・運動能力向上出前研修会」のより充実した内容の改善工夫、さらには「元気アップみやぎっ子！『Web』長なわ八の字跳び大会」の継続的な実施などにより、体力・運動能力の向上を図ってまいりたいと考えております。

先ほどもちょっと御紹介した資料の4の45ページに、「今後の体力・運動能力の向上にむけて」ということで、今年度の本県教育委員会の取り組みなどもまとめておりますので、後ほど御覧いただければというふうに思っております。

また、その下の黒ポツになります、資料のほうにお戻りいただきまして、12月に行われております実業団女子駅伝について、高校生ボランティアを増やしていくとか、そういったことなどを通して、既存のボランティア団体などとも連携して、青少年世代におけるスポーツをみる・支える活動、こういったものもさらに推進していきたいというふうに考えております。

資料のほう、もう1枚おめくりいただきまして、続きまして「施策の柱Ⅰ 生涯にわたるスポーツ活動の推進」のうち「働く世代のスポーツと高齢者のスポーツ」につきましての成果と評価について御説明を申し上げます。

施策評価は、「やや遅れている」といたしました。目標指標等につきましては、平成25年度においては現状値が把握できないことから、目標指標に対する達成度などの評価はちょっと判定できておりません。

これは、スポーツ実施率につきましては、平成27年度に「スポーツに関するアンケート調査」、さらに日常生活における歩数については、平成28年度に「みやぎ21健康プランによる

調査」でそれぞれ実施する予定となっておりますので、現段階平成25年度の数値というものは、ちょっと出ていないものでございます。御了解いただければと思っております。

次に、事業の成果等についてでございますが、「宮城ヘルシーふるさとスポーツ祭」を圏域ごとに7カ所、地域の特色を生かした種目を実施し、予選を含めますと延べ29,717人の県民の方々に御参加をいただきました。

このほか、宮城県障害者スポーツ大会におきましては、陸上、水泳、卓球、フライングディスク、ボーリング、アーチェリーなどの各競技を実施いたしまして、1,231人の方に御参加をいただきました。

また、県内7会場で実施される老人クラブ体力づくり大会への助成などを通じまして、高齢者の健康づくりといったものも推進をしております。

次に、第2次みやぎ21健康プランを平成25年度に策定をいたしまして、「身体活動・運動分野」では「歩こう！あと15分」をスローガンに取り組み、7保健所で13回のメタボ予防プロジェクト・研修会などを開催し、合計606人の方に御参加いただくなど、身体活動・運動分野、そういったものの推進も図っているところでございます。

以上のとおり、施策の目的達成のため各種事業を実施しているところではありますが、先ほど申し上げましたとおり現状値がちょっとつかめておりませんので、そういった状況がございます。しかしながら、震災後のスポーツを取り巻く環境がまだ整っていない地域があるということや、参加者数に伸びが見られない、そういったことから施策評価としましては「やや遅れている」と判断をいたしました。

今後の対応としましては、生涯スポーツの充実を図るため、「宮城ヘルシーふるさとスポーツ祭」を市町村や関係団体と連携して今後とも開催していくことにより、県民一人一人のスポーツ活動への参加意欲をさらに喚起してまいりたいと考えております。また、県内大学等と連携いたしまして、運動の体験や実技を取り入れた健康づくり教室、そういったものを開催することなどにより、スポーツによる健康づくりの機会というものをさらに創出していきたいと考えております。

資料のほう、さらにまた1枚めくっていただきまして、「施策の柱Ⅱ 競技力向上に向けたスポーツ活動の推進」について御説明申し上げます。

施策評価は、「概ね順調」としております。

まず目標指標ですが、国民体育大会男女総合、俗に「天皇杯」と言われておりますが、この10位台の維持ということを目標としておりますが、平成24年度25位から平成25年度は

21位と順位を4位上げ、10位まであと2つということで90.5%の達成度というふうになっております。皇后杯成績順位においても、平成24年度26位から順位を2つ上げて24位となっております。しかし、いずれもまだ目標の10位台には達成していないというふうな状況でございます。

ユースオリンピックにおける本県選手については、2012年第1回ユースオリンピック冬季競技大会（インスブルック）におきまして、スケルトン競技に3名の選手を輩出しております。

また、皆様御存知のとおりオリンピック、パラリンピックにおける本県の出身のメダリストにつきましては、ソチオリンピックにおいて本県出身の羽生結弦選手が金メダルを獲得しております。

次に、事業の成果等についてですが、本県のスポーツ振興と競技力及びスポーツ水準の向上を図るため、競技団体強化事業をはじめとする各年代に応じた強化事業を展開しているところであります。

県体育協会への活動費補助としまして、国体の参加経費及び県予選会の開催経費などを補助しており、こういったことを通じまして国体につきましては、先ほど申し上げたとおり平成25年度総合順位21位、前年より順位を4位上げたところではございますが、大変申し上げにくいんですが、今年度につきましてはまた25位ということで順位を下げてしまいましたので、来年度に向けてまた新たな施策の拡充なども考えていかなければいけないというふうに考えております。

また、次になりますが、ジュニア層の育成強化のために、みやぎ「夢・復興」ジュニアスポーツパワーアップ事業を新たに展開いたしております。年11回のプログラムを開催いたしまして、県内から運動能力の優れた子どもたちを集めまして、現役オリンピックをはじめとしまして国内トップの指導者を講師として招聘し、実技指導などを行っております。そういった子どもたちに対してトップアスリートとして必要な基礎知識、スポーツに対する考え方、また学習との両立などさまざまな内容を、先進的な指導方法を活用して選手育成というものを図っております。このアカデミーの中で、さまざまな競技を体験していただいて、またハイレベルな指導を受けることによって、選手としての考え方を深めて、人間性を高めることができたものと考えております。また、平成25年度アカデミーを修了した生徒1人が、高飛び込みの選手としてJOCのエリートアカデミー生に選抜されて、現在活躍されているということを申し添えます。

以上により、こちらの施策につきましては国民体育大会順位につきましては目標に達しておりませんが、達成率は「B」であり、さらにはユースオリンピック、オリンピック、パラリンピックにおいても本県出身選手を輩出しているなど、一定の成果は認められておりますので、施策の目的に向けて「概ね順調」に推移しているものと判断しております。

この評価を受けて今後の対応でございますが、平成29年度南東北インターハイが開催されます。このインターハイに向けまして、高体連強化事業として、平成29年度のインターハイに向けた特別強化事業を実施するとともに、そういったことを通じて国体の総合順位というのも上げていく必要があるのではないかと考えております。これらインターハイ、国体の評価を、こういった取り組みを通しまして、南東北インターハイで活躍した選手が2020年の東京オリンピック、パラリンピックに出場してメダルをぜひ取っていただけるような、そういった強化を図っていきたいと考えております。

続きまして、施策の3になります。また1枚資料のほうをおめくりください。「スポーツ活動を支えるための環境づくりの充実」の成果と評価について。施策評価につきましては、「やや遅れている」としております。

目標指標等につきましては、まず総合型地域スポーツクラブが現在21市町村で設置されております。なお、クラブ数につきましては平成25年度は3クラブ増え、合計44クラブが活動してございますが、最終的に35、全部の市町村での設置ということに対しまして、まだ目標年29年度まで28市町村、こちらのほう、達成率は75%ということで、達成度「C」というふうに区分されております。

次に、NPO等の法人格を取得した総合型地域スポーツクラブを有している市町村の数についてですが、クラブ数が先ほど3つふえていると申し上げましたけれども、新たに法人格を取得したクラブというのはなく、現在のところは10市町にとどまっております。平成29年度までには20市町を目標としておりますので、現在の達成率は50%、達成度「C」に区分されます。

続きまして、外部指導者数についてですが、平成22年度の292人に対して、平成25年度は338人となっております。内訳は、中学校が104校に235人、高等学校では47校に103人、46人の増加となっております。達成率は96.6%となり、達成度は「B」に区分されます。

次に、事業の成果等についてです。

初めに、総合型地域スポーツクラブの市町村設置状況についてですが、広域スポーツセンタ

一委託事業というのを行っております、その業務の中で総合型クラブ設立・育成のための指導、助言、さらには相談活動などを行っております。平成25年度は、市町村訪問相談数が66回、講師派遣事業が32時間など、総合型クラブ創設に向けた支援や既存クラブへの支援を実施しております。

次に、総合型クラブのNPO等（法人格）取得に向けての取組状況についてですが、既存クラブへの支援・相談活動としてクラブ支援を78回、年間を通して行いました。また、それぞれの総合型クラブが自立していくために、クラブマネージャーやスポーツリーダーなど、クラブ経営や地域を牽引する人材の育成を目的として、アシスタントマネージャー養成研修会を2回開催し、16名の指導者を養成しているところでございます。

次に、外部指導者につきましては、地域のすぐれたスポーツ経験者やスポーツ指導者等を「外部指導者」として活用することで、運動部活動の充実と地域との連携を深めていくことなどを目的に事業展開をしてございます。また、指導者の資質向上を図るために運動部活動指導者研修会を2回開催しております。

次に、スポーツボランティアの活動経験につきましては、グランディ21ボランティア活動支援を通しまして、スポーツボランティアとして活動できる人材の養成を図るため、講習会を1回開催し、12名の方が受講されております。年間では90名の方がボランティア登録となりました。

また、障害者スポーツ大会の開催に必要なボランティアを養成するため、ボランティア養成研修を7回、113名、リーダー研修会4回、18名、ボランティア派遣を10回、延べ92名の事業を実施したところであります。このほか、先ほど申し上げましたがクイーンズ駅伝では、高校生のボランティアであったり、宮城ヘルシーふるさとスポーツ祭では、一般のボランティアを募り、大会を支えていただきました。

次に、競技場でのスポーツ観戦者の割合といったものに関してでございますが、昨年の楽天イーグルスの優勝パレードにつきまして、「マイチーム協議会」という行政や民間の方々と連携した組織でこういったパレードを開催しまして、約214,000人の方々が詰めかけていただいたという意味で「みる・支える」、そういったスポーツの発展につながっているというふうに考えております。

以上のとおり、施策目的達成のため各種事業を実施し、一定の成果がありました。総合型地域スポーツクラブに関する目標指標等の達成度などを勘案しますと、施策評価としましては「やや遅れている」と判断をいたしました。

今後の対応といたしましては、総合型クラブ設立・育成については、広域スポーツセンターにおいて未設置市町村の支援を中心に指導・助言をしてまいり、そういったきめ細かな取り組みを進めて、さらに設置市町村の数を増やしていきたいと思っております。また、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会などを見据えまして、地域のスポーツ活動や運営を支えるスポーツボランティアのさらなる育成を図っていききたいと思っております。

以上、施策の成果と評価について御説明申し上げましたけれども、なお個別の事業の成果と次年度の方向性につきましては、資料の3の3にまとめておりますので、後ほど御覧いただければと思います。

以上、前期アクションプランによる平成25年度事業の成果等について御説明申し上げました。平成25年度の評価を踏まえまして、本計画の次年度以降に向けての方向性などについて御審議、御意見をいただければと思います。

○前田会長 それでは、ただいま説明がありました内容につきまして、御意見、御質問がありましたらお願いいたします。

本年度から委員になられた方もいらっしゃいますけれども、どうぞ忌憚のない御意見、御質問等をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。非常に多岐にわたる内容で、急に資料があつてあれだと思いますが、一応4つに分けて御説明いただきましたので、それを中心に御質問いただければと思いますが、いかがでしょうか。

体力と申しますか、「生涯にわたるスポーツ活動の推進」というところからまずいきましようか。これについて、いかがでしょうか。

まず、私もここに子どもの体力・運動能力拡充合同推進会議というところで関係しているわけですが、全国値に追いつくというのが大きな目標、体力合計点では目標で、達成率が98.7%と非常に一見と申しますか、いいところまできているんですが、この点数というのは小さいようでなかなか大きいなというような印象を受けるんですが、事務局としてこの達成率と目標達成の可能性等については、まあ順調にいつているというふうに考えていらっしゃるということでよろしいのでしょうか。

○松坂参事兼スポーツ健康課長 我々が目標にしております全国値との比較につきましては、小5と中2のものが全国と比較できる材料というふうなことでございまして、これらをもとに比較をしたときには、中学校2年生の男子については目標を達成している。そのほかについては、目標は達成はしていないんだけど、点数的には大きく離れているわけでもないというふうなところで、今回のような施策評価をさせていただいたところではございますが、課題はある

というふうに認識をしてございまして、まだ子どもたちの体力、数値が震災を挟んで、震災前の平成21年度からまた低下傾向にあるというふうなことで、これをまた右肩上がりにすっかり変わりきれていないというふうなこともございますので、課題があるというふうには認識しておりますので、今いろいろな取り組みを通して全学年とも右肩上がりにもっていきたいと考えておりますし、目標の全国値を上回るというふうなことについても、達成をしていきたいというふうに考えています。

○前田会長 この達成率の中で、3番の「運動習慣の確立のため、地域と連携して運動やスポーツをする機会を創設する」というところが、ここだけが「C」評価で、ほかは「B」評価になっているわけですが、ということはここを少し重点的にやることで全体的なものがもう少し向上するのかなというふうな印象も受けるんですけれども、この今後の取り組みについてはどんなふうにお考えでしょうか。もし、何か具体的なことがありましたら。

○松坂参事兼スポーツ健康課長 それでは、地域と連携をしてというふうなことで、施策の柱のⅢに出てきます、その中の総合型地域スポーツクラブとの連携とか、そういった形での推進もあろうかと思っております。

そういった中で、実は中学校の運動部活動について、いろいろと今課題があるというふうに認識をしております。教員の負担感も含めて、中学校の学校の規模が小規模、中規模校になってきていると。そういった場合に、今までのような幾つもの運動部の運営が難しいというふうなことも出てきておりますので、今年度からモデル地区を4市町に設けまして、地域と連携をした中学校の運動部活動のあり方について、実践研究を開始したところでございます。御協力いただいておりますというか、進めていただいておりますのが気仙沼市、それから七ヶ浜町、それから富谷町、そして塩竈市という4つの市町で、木間さんにもお入りいただいて、そういった実践研究に入っておりますので、そういった中で地域が持っているスポーツ資源、指導者を中心にそういったところでの地域連携のあり方も研究していきたいなというふうに考えております。

○前田会長 柱のⅠ、生涯にわたるスポーツ活動の推進につきまして、何か御意見、御質問等。

○高橋委員 お伺いしたいことと、お願いしたいこととあるわけですが、子どものスポーツの中でも特に幼少期のスポーツに関する態度といいますか、好きになる、そして飛ぶ、投げる、走るといった基本的な技術というのが、その後の子どもの生涯に非常に大きな影響があるんだろうと思っています。

そこで、この2番の運動やスポーツをすることが好きな児童生徒の割合が、おおむね順調の

「B」ではあるけれども、数値的にはぎりぎりの線なのかなというような感じもして、この辺をもう少し、例えば震災でなかなか環境的にも好きな運動が思うようにできなかった、あるいは種目的にも限定されているような地域があったのかどうなのか。それに、震災の影響というのがそもそもあったのかどうなのか、その辺の検証があったかどうかということ。

それから、2枚目のほうには例えば『Web』長なわ八の字跳び大会」ですか、こういった継続的な実施というものが非常に効果的だなと思って伺ってございましたけれども、これがどれだけ、これ全県で98チームの参加ということなのでしょうか。そうすると、まだまだちょっと参加が少ないのかなと。こういった興味関心を高めるようなことが、ものすごく子どもたちには効果的なのかなと。

ある小学校に見学に行きましたところ、「今は、小学校ではドッジボールやっていないんですよ」という話を聞きまして、ドッジボールのかわりにフリスビーを投げてドッジボールをやっていると。「なるほど、そういうふうな学校が増えてきているのか。そうすると投げる動作というのは、これはなかなか発達しないんだろうな」というふうに率直に思ってきたわけですが、その辺の運動を好きになるためには、基本的な技術というか基本的な動作というののも必要になってくると思われまますので、その辺を何か普及できるような方策があればいいなというような、これはお願いも含めてでございます。以上です。

○松坂参事兼スポーツ健康課長 ありがとうございます。

まず「基本的動作」の前に、幼少期の取り組みにつきましては、先ほど申し上げました「体力・運動能力拡充合同推進会議」というふうなものを、県と仙台市教育委員会、宮城教育大学、それから県内の体育の研究団体、小・中・高の研究団体等がお入りいただいた会議を平成15年度から実施をしておるところでございますが、平成25年、昨年度からここに教育企画室、県の教育委員会の中の教育企画室にお入りをいただきまして、教育企画室で今進めております「ルルブル運動」というのがございます。「ルルブル」で、「寝る」「食べる」「遊ぶ」「伸びる」というふうなもの、幼少期の子どもたちを対象にしてこういった基本的な生活習慣の確立を目指して、体力向上なり学力向上につなげていきたいと思いますというふうなことで、幼少期の取り組みを重視した運動がございます。そういった方々に入っていたり、それからこちらスポーツ健康課の中でも学校安全体育班中心で進めてきましたけれども、学校保健給食班のほうも入りまして、食育とか学校保健の立場からも体力向上策を検討していきたいということで、幼少期に少しの取り組みも始めたところでございます。

それから、震災の影響につきましては、お配りした資料の4、冊子の「体力・運動能力の向

上」についての水色の冊子、先ほど専門監からお話がありました、45ページにそれぞれの対策をまとめているところですが、その前に震災の影響については1ページに、平成25年度と平成22年度、震災前の結果の比較をさせていただきます。1ページのところで、平成25年度（昨年度）と震災前の結果の比較をして表にまとめておりますが、それぞれ小・中・高と調査種目で、プラスマイナスでここは前田先生に統計学上の処理もしていただいて、上昇しているものをプラス、下がっているものをマイナスというような形で表しております、握力が下がっていたり、ボール投げが下がっていたりしておりますが、そういったことが1つありますが、プラスマイナスが混在をしていること、それから、地域的に見たものが8ページ以降にレーダーチャートで、震災前と比較というようなことで全部調べてはあるんです。県全体と、それから11ページ以降は教育事務所ごと、大河原教育事務所から7教育事務所、例えば南三陸教育事務所とか東部教育事務所、石巻とか南三陸町、気仙沼を中心とした地域も全部見ておるんですけども、学年、男女別によりまして上がり下がりがいろいろと出てくるというようなことで、これらのデータからは我々は「震災の影響があって下がったとは言い切れない。現在のところ、まだ不明だ。」というふうな立場をとっております。そういうふうなところで、影響があったかどうか確実に明確に表しているものはないというふうに捉えております。

それから、先ほど申し上げました対策の1つとして、45ページの対策の中で2番の①体力・運動能力に関する講習会の開催とさせていただきますが、平成25年度から小学校の体育主任を悉皆で講習会を実施しております、時期も4月の中旬というか4月中にやるということで、基本的には学年初めに実施、年度初めに実施して、その年度に生かしたいというふうなことで悉皆でやっております。その中で、体力向上策の研修もしておりますし、先ほど申し上げました投げる動作等の技術指導も取り入れるようにここで指導研修をさせていただきます。なかなか今、野球で、グラウンドで子どもたちが遊べないというような状況があるというようなこともお聞きをしておりますし、そういったところも含めて投げる動作、あるいは立ち幅跳び等の動作指導もしっかりやりましょうというふうなところで、指導をお願いしているところです。そういったことを通して、小学校の先生方全体に基本的な運動の動作の指導をお願いしているところでございます。

それから最後に、今お話し『Web』長なわ八の字跳び大会」につきましても、できれば全県的に競技の大会ではないんですが、Web上で参加できますよというようなところで、これも広く取り組みを進めたいというふうに思っているところでございます。御指摘のとおりまだ98チームと、まだまだ少ない状況ではございますので、何とかこども広めて体力向上につ

なげていきたいなと思っております。

なお、この事業はうちの予算ではなくて、東日本大震災復興支援財団様からの御支援によって進めている事業でございます。これらにつきましては体力向上を進めながら復興を担う人材づくりというふうなところを第一義的に進めてもいるところでございます。以上でございます。

○前田会長 2番の「生涯にわたるスポーツ活動の推進」というところで、何か御質問、御意見等お持ちでしょうか。

○木間委員 基本方針の3番に、「子どもがスポーツを『みる』『支える』機会の創出」ということで掲げられているんですけれども、この具体的な取り組みなどどのようにお考えなのかといった点、一つお聞きしたかったことになります。お願いします。

○鈴木スポーツ振興班長

「子どもがスポーツを『みる』『支える』機会の創出」ということで、本県共催事業として12月に実業団駅伝「クイーンズ駅伝 in 宮城」を開催しておりますが、そういった機会に高校生のボランティア活動を、さまざまなボランティアの組織と連携して、高校生を活用し、沿道の整理などを行いながら、レベルの高い試合を見て、自分たちも参画していくといったような機会を設けています。

また、そういった事業を行う上で、県体育協会のほうに委託しております広域スポーツセンター事業の中でも生涯スポーツの振興を推進を目的に、さまざまな「みる」機会を創出するといった事業を展開しております。また、震災復興・企画総務課において、プロチームの協議会を設置し、プロスポーツチームの地域への定着を支援するために各スポーツそれぞれの地域支援組織への参画を通じ、側面支援を行うといったようなことで「みる」機会の創出も行っております。以上です。

○木間委員 ありがとうございます。

○前田会長 ほかにありませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、次3番目の「競技力向上に向けたスポーツ活動の推進」ということでいかがでしょうか。よろしいでしょうか。これについては、今後南東北のインターハイですとか2020年の東京オリンピック、宮城ですとサッカーの予選ということになりますか。

○松坂参事兼スポーツ健康課長 予選か決勝か、今のところはまだ。大体予選らしいかなという感じはあるんですが、できれば何とか決勝を宮城でと。

○前田会長 まあ、それに向けてさまざま機会があつたりとか、強化しなければいけないこ

とがあったりということもあるんだと思いますけれども。

国体の順位というのは、これは21番とか25番というふうなところで上下しているという感じでしょうか。そこから落ちていないということでしょうか。

○松坂参事兼スポーツ健康課長 平成24年度が25位でございまして、それまではずっと10位台、平成13年の国体以降ずっと10位台を維持してきたところではございますが、下がってきて、昨年少し持ちこたえて21位。また、今年度は御承知のようにまた25位というふうなところで少し動きが、20位台前半で動いているというふうな状況ではございます。

○前田会長 子どもの体力も、中学生が全国で二十何番目かで、小学生だと30位台だったんですけれども、全体的にやはりもう少し時間をかけて底上げが必要だなという感じがいたしますね。

○松坂参事兼スポーツ健康課長 そうですね。競技力、いろいろな分析はこれから、県の体育協会とともにしていきたいなとは思っているところではございます。少年の男子、少年の女子の競技力が落ちてきているのか成年の男子、成年の女子が落ちてきているのか等の分析も必要かなとも思っております。

あと、国体の順位そのものをどう見ていくかというようなところもないわけではないんですけども、それはこの話をしてしまうと我々目標がずれてしまいますので、何とか国体の順位を向上、維持できるようにしていきたいと思っております。

ちょっと愚痴になりますが、今年度もちょっと上位に行けるチームもあったのかななんていうような反省をしております。そこについてはやっぱりある部分で勝負事ではございますのでしようがないかなとは思っておりますが、ちょっと私どもの力不足だったなとも思っておりますので、ここに載せました。県の体育協会と、より詳細にわたり分析をしていきたいというふう考えております。

○前田会長 よろしいでしょうか。

それでは、最後の「スポーツ活動を支えるための環境づくりの充実」というところでは、いかがでしょうか。

総合型の地域スポーツクラブを有している市町村の数ですとか、そういうところがなかなか増えないというんですか、当初のままということではございますけれども、これの今後の予定としてはこれが増える可能性といたしますか、計画のようなものは何かあるのでしょうか。

○松坂参事兼スポーツ健康課長 総合型地域スポーツクラブについては、各市町さんに広域スポーツセンター（体育協会の中に設置をしておりますけれども）、そういったところを中心にして

まだ未設置の市町さんには訪問をさせていただいて、設立に向けて今御相談をしているところでございます。今年度設立の準備委員会が立ち上がったところ、2つの町がございますので、ここ2つはもう近々総合型が設立をされるのではないかなというふうに考えているところがございます。「考えてみますよ」というふうな市町さんも出てきておりますので、またそこからプラス何個かはいけるかなとは思っておりますが、あとは市町さんの状況と、あるいは震災によってまだ復興整備が遅れているというふうな市町さんもございますので、そういった市町さんも含めてちょっと時間がかかるかもしれませんが、何とか目標に向けて努力をしていきたいというふうに考えております。

○高橋委員 このスポーツクラブの数がなかなか進まないというのは、恐らく日本の文化の中でスポーツ活動というのは学校でただで教えてくれるという、そういった文化が日本には根付いていて、我々高体連としてはありがたいような、もっといろいろな展開はないのかなと思うようないろいろな考え方が出てくるんですが、その社会体育に移行する一つのはしごになるのが、外部指導者というような方々ではないのかなと思っております。つまり、学校の指導者だけではなくて、地域の方々の指導力をお借りして学校と地域でやるという、その入口はやはり外部指導者をどれだけ活用できるかということにあるのではないのかなと思っていて、まずこれが充実して発展的に進んでいかないと、なかなか社会体育には移行できないのかなと思うんですが。

この外部指導者、今もう既に活用されているという事業成果がございますけれども、今後より一層これを充実展開されるようなお考えがあるのかどうなのか、ちょっとお伺いしておきたいと思えます。

○松坂参事兼スポーツ健康課長 地域連携につきましては、先ほども若干お話しさせていただいた部分もございますが、あわせて先ほどスポーツ推進計画の冊子の29ページのところでは、基本姿勢のところですね。冊子の推進計画の29ページの基本姿勢で、結局行政側が今まで中心になって進めてきたところがありますけれども、何とか県民が主体となって地域としてスポーツを推進していくといった方向でいきたいというようなところは、我々も共通しているところがございます。そういった中で、今お話のありました外部指導者については、何とか拡充を図りながら、その地域と連携をしたスポーツ活動の推進を進めてまいりたいというふうに考えております。

先ほど申し上げました気仙沼市、七ヶ浜町、富谷町、塩竈市といったところでの中学校のモデル地区での運動部活動の推進というふうなことで、この辺は逆に木間さんから少しまたお話ししていただいてもいいのかなと思っておりますけれども、何とかこの4地域ではこれまでの

外部指導者よりも人数を増やした形で、学校と連携を組んで進められないか、そういったところを考えておるところです。市町さんによっては、総合型の地域スポーツクラブと連携を組むスタイルですとか、それから市町の体育協会と連携を組むスタイルですとか、あるいは総合型以外のもともとある地域のスポーツクラブと連携を組むスタイルですとか、そういった形態がこの4市町さんからも出てきておりますので、そういった中で外部指導者を活用した地域連携のスポーツ活動のあり方というふうなことも、さらに研究してまいりたいと思っております。

具体的には、木間さんあたりからも話題提供していただければよろしいかなとも思います。

○木間委員 今の外部指導者に関してですが、その総合型クラブと連携をしてといった点に関しましては、今回県からお話をいただいたときに1つチャンスだと思ったのが、もう一度町のスポーツに関する考え方をきちんと、いろいろな団体の立場の方が集まって、1つのテーブルに着いて考える機会を得たのではないかというふうに前向きに捉えていまして、これを期に、七ヶ浜の子どもたちをスポーツを通してどう育てていくかといった点を、スポーツ推進委員さんであったりスポ少、体協、総合型、あとはPTAなどいろいろな立場の方の意見を取り入れながら、1つのロードマップをきちんとつくっていくということが今までずっとなかったもので、そういった点ではこの外部指導者が、地域の人が学校に入っていくといった視点で考えたときに、やはりもう一度考えるチャンスになるんじゃないかというので、手を挙げさせていただいております。

もちろんこの外部指導者、七ヶ浜の中でもそうなんですけど、部活動に派遣をする例が今柔道と剣道だけなんです。ただどうしても部活動の時間に協力できる方というのは、60歳を過ぎた方になってしまっておりまして、やはりどうしても高齢化が言われていたり、もしかして指導方法が今の子どもたちの状況とは合わないかもしれないといった懸念ももちろんあります。では町としての方針をきちんと固めていくべきじゃないかと。もちろん、その中ではきちんとニーズ調査も含め、今の時代にあった指導とは何かといったところも、スポーツ少年団の指導者も含めて考えていかなきゃいけないというのがありますので、ちょっとこれは今すぐ報告できるものではないんですが、何かしらの成果が出ればいいなというふうに思っています。それを期に、やっぱり学校からこういった地域を、もっと見てもらうチャンスにもなっていけばなと思っております。

もう1つ、今、総合型地域スポーツクラブがなかなかうまく進んでいないという点に関しましては、実は宮城県は全国的にもクラブの設立・育成率というのは低い、ワーストに近い状況ではあるんですけども、私もその中で日本体育協会のほうの委員をさせていただいております。

して、今どちらかというと平成16年、15年あたりに多かった「とにかくつくりましょう」といった量をつくろうといった時代ではなくて、今からは質を求めるところで、総合型クラブがいかに地域に根ざしていくかといったところで、部活動との連携をしているクラブがあったり、志波姫という栗原市のクラブは中学校の部活動がそのまま全部スポーツクラブに入って連携をしていたり、もしくは南光台であるとスポーツ推進委員さんが中心になって活動していたり、いろいろ形態は違うんですが、そのでき上がったクラブがその地域でどう位置づけられていくかといったものが、大切かと思えます。地域の実情に合わせてにはなるとは思いますが。

今私の中で一番課題だと感じているのがそこに政策がないといえますか、スポーツ推進計画がない市町村が多いといったところが、私たち現場でスポーツに取り組んでいながらすごく問題だなと感じておまして、平成25年の4月の時点で35市町村の中で19市町村が策定済みであって、16市町村は策定中か、もしくは「予定がない」というふうに県に回答しているという例を県のほうからいただいております、実は七ヶ浜町もありません。

そうなりますと、一番困るのは多分スポーツ推進委員さんだとは思うんですけども、この町のスポーツはどうなっていくのかというのが全くない中で、それぞれがクラブの質を求められたり、スポーツ推進委員さんもいろいろな活動をしていたり、また別では体協・スポ少が活動したりといった、このばらばら感がものすごく地域の現場ではありまして、そういったところを実は文科省にも問い合わせをしたことがありまして、もちろんスポーツ基本計画の中では、スポーツ推進計画を策定するのは市町村に関しては、努力目標の位置づけでしかないということではあったんですが。

どうにか県のほうから、策定をするという部分に関しては、義務にはならないかもしれないんですが、指導していただけるとこのでき上がったクラブの質も高まるかと思えますし、もちろん、今日このようにお集まりの方たち、地域でも同じように先生がいたり、高校の先生がいたりということでもありますので、そうしたところではやはり連携がもっと図られるんじゃないかなと思います。もちろん予算がつくかどうかは別なんですけど、そういった機会を与えていただけるだけでも、設立したクラブの質がもっと高まっていくと、今の未設置市町村に関しても「あんなクラブだったら、うちの町にもつくってみたい」というようないいモデルになっていくんじゃないかなというふうに感じておりました。

あともう一つ、済みません、情報提供だけになるんですが、今七ヶ浜の小学校6年生と中学校1年生ですね。震災のときに3年生、4年生だった子どもたちの中で、震災のときにいろいろ

るな支援を受けたものに対してお礼をしたいとか、恩返しをしたいというふうな声が出ていまして、その子たちの中で話が今出ていたのが、宮城にサッカーの予選が来るとか、あとは来年の国連の会議で世界からもう一度宮城に目が向くというときに、何かお礼ができないかなという話が出ておりました。それをスポーツに関係する中で進めたほうがいいのか、もしくは教育委員会マターになっていくのか、ちょっとそういった子どもたちのせっかくの気持ちをうまく形にできたらなというのもありますので、何かアドバイスがあればお願いしたいなと思っております。

○前田会長 ありがとうございます。

○松坂参事兼スポーツ健康課長 それでは、その前に総合型につきましてまだ未設置の市町村につきまして、本当にありがたい御意見をいただきましたので、県としてどういった支援をすることがこの市町に総合型地域スポーツクラブを増やしていったり、あるいは市町のスポーツ推進計画の策定に結びついたりするのか、ぜひ持ち帰らせていただいて今後検討させていただきたいというふうに思います。

それから、今震災の感謝については、専門監、オリンピック関連の課題になりますかね。

○武者スポーツ振興専門監 ちょっと国の防災会議のほうになりますと、どういうふうな形にできるか関係するところに当たってみたいと思っておりますが、オリンピックにつきましては今東京の組織委員会のほうと、被災地復興支援事業というものを今協議しております、事業化が確定しているわけではないんですが、「1校1国運動」とかそういった形で市町村の方々の事業として展開して、1国を応援していくような、被災地としてそういった感謝をオリンピックの選手の方たちに対してやっていくようなことができないかというようなことを、そういった被災地と世界各国との国際交流事業ですね。例えばなんですけれども、まだアイデアベースとしては震災後に世界から受けた支援のお礼として、被災各県の学校が世界の子どもたちを励ますことができるようなそういった子ども同士の交流とか、あと先ほども言った「1校1国運動」とか、そういった形で海外とのオリンピックを通じたところで、教育プログラムをつくって復興の姿を見てもらって、復興に対する支援の感謝を伝達するような場ができないか、ちょっとまだオリンピックまで五、六年あるんですが、そういったことができないかということは今東京の組織のほうとも打ち合わせをさせていただいている、そんな状況であります。

○前田会長 その点については、また後ほどオリンピックの話題等もありますので、そこでまた御検討いただければと思います。

時間もありますので、「前期アクションプランによる平成25年度事業の成果等について」は、

以上で終わりにしたいと思いますが、よろしいでしょうか。何か、特別に御意見等ありますか。よろしいですか。

それでは、これで終わりにいたします。

## 5 報告

○前田会長 続きまして、5の報告事項に移ります。事務局から説明お願いいたします。

○鈴木主幹（スポーツ振興班長） それでは、スポーツ振興班・鈴木のほうから、報告3点させていただきます。

順序逆になり、申し訳ありませんが、まず最初に一番下参考資料3の「東京オリンピック・パラリンピック競技大会関係」について御説明させていただきます。参考資料の1ページを御覧ください。

平成25年9月7日IOC総会において、第32回オリンピック競技大会と第16回パラリンピック競技大会の東京都開催が決定しております。概要については、1ページの上のほうに記載のとおりです。本県においては、ひとめぼれスタジアム宮城においてサッカー競技の開催が予定されております。現段階では、計画案というような状況でございます。平成26年1月24日に、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が設立されております。今後の予定といたしまして平成27年2月までに、大会組織委員会において大会開催の基本計画をIOCに提出するということになっております。

続きまして、2ページを御覧ください。

国内の組織体制についてですが、大会組織委員会は名誉会長に御手洗氏、会長には元総理の森喜朗氏を選任し、理事会を構成し、評議委員会、顧問会議を設置して、競技大会の計画、準備、開催などについてオールジャパンの国内体制で事業を推進していくこととなっております。なお、顧問会議の委員として村井知事が就任しております。また、2020年に向けた政府の体制としても、円滑な大会準備に資するため、行政各部の所管する事務の連絡調整を行う、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会等に関する閣僚会議を設置しております。2ページの下に記載のとおりでございます。

続きまして、3ページを御覧ください。

2020年の大会に向けた全体のスケジュールになっております。この中で、先ほども説明いたしました、真ん中あたりの実施事業について、大会前、大会直前、大会期間中、さらに大会後ということで、どんな事業をいつ頃から実施できるのかということ、現在組織委員会

と協議をしている最中でございます。その中に教育プログラムの「1校1国運動」等々が入ってくるというようなことで、先ほど御説明もありましたが、そのような内容の事業を東京の組織委員会で協議している状況でございます。

続きまして、4ページ、5ページを御覧ください。

「事前キャンプ候補地ガイド掲載情報に関する募集スケジュールについて」という、組織委員会からのプレスリリースの資料になります。

2016年8月に開催されますリオデジャネイロオリンピック・パラリンピック競技大会の開催に合わせて、各国、各地域のオリンピック・パラリンピック委員会に対して事前キャンプ候補地を紹介するリストを作成する予定になっております。詳細な予定は、平成27年1月15日に、組織委員会ホームページにて応募要項を発表し、その後説明会を開催して、平成27年4月1日からデータ登録の受け付けを開始する運びとなっております。

本県においては、今年5月から6月にかけて、県内市町村に対して東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた取り組みや要望に関する調査を行いました。その中で、それぞれの自治体のほうで考えていることがいろいろありましたが、特に事前キャンプにつきましては登米市がボート競技のキャンプ誘致を検討しているといったようなことと、それ以外の市町村においても検討しているところが幾つかございました。また、石巻市においては聖火リレー・聖火台誘致委員会を設立し、聖火リレーの出発地と聖火台の誘致については関係機関に要望を行っております。先日の報道によると、国立競技場の聖火台の石巻への貸与が決定したようです。

なお、今後県内市町村との連絡会議を11月10日に開催し、現在の意向や情報共有を図っていきたいと考えております。

続きまして、6ページ、7ページを御覧ください。

本県のオリンピック・パラリンピック競技大会に向けての推進本部設置の状況と取り組みについて御説明いたします。

本県では、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の円滑な推進に県全体で取り組むため、今年4月に知事を本部長とする「宮城2020東京オリンピック・パラリンピック推進本部」を立ち上げました。これまでに推進本部会議1回、幹事会2回を開催し、情報の共有とそれぞれの部局で行うべき施策の確認などを行いました。また、6月16日に大会組織委員会の森会長が来県され、知事との意見交換とともに共同文書を締結いたしました。内容については、8ページに掲載しておりますので、御覧いただきたいと思います。

2020年は、本県の震災復興計画の最終年に当たっております。国内外の方々に、復興の状況と御支援に対する感謝の気持ちをお伝えする絶好の機会であるため、さらに関係機関と連携を密に図りながら進めてまいりますので、皆様の御協力をよろしくお願ひしたいと思います。

続きまして、参考資料1を御覧ください。

平成27年度の全国中学校体育大会について御説明いたします。

東北・北海道ブロックで開催されます全国中学校体育大会については、宮城県では卓球競技とソフトボール競技の2種目が開催されます。卓球競技は利府町、セキスイハイムスーパーアリーナで、ソフトボール競技は、東松島市の鷹来の森運動公園で行われます。7月に、宮城県の中学校体育連盟が中心となり実行委員会を組織しまして、現在準備に当たっております。皆様の御協力もよろしくお願ひしたいと思います。

続きまして、参考資料2を御覧ください。

平成29年度全国高等学校総合体育大会(南東北)インターハイについて御説明いたします。

本大会につきましては、山形県を主幹事県としまして、宮城・福島の3県で開催されます。本県での開催競技につきましては、資料に掲載のとおり11競技になっております。開催時期は、平成29年7月下旬から8月中旬にかけてということで、現在日程等を調整しております。なお、今年度からスポーツ振興班にインターハイ担当2名を配置いたしまして、本格的な準備をスタートしております。今後開催に伴い、何かと御協力いただくことになると思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

このように、本県スポーツ推進計画の期間、平成34年までに、全国的、世界規模のスポーツ大会が開催予定となっております。「県民一人ひとりがさまざまな形でスポーツを楽しみ、家族や地域社会が強いきずなでつながり、東日本大震災を乗り越え、活力に満ちた幸福で豊かなみやぎ」を目指し、より一層のスポーツ推進に皆様とともに取り組んでまいりますので、よろしくお願ひしたいと思います。以上です。

○前田会長 ただいま説明がありました内容につきまして、何か御質問、御意見等ございましたらお願ひいたします。

○朝間委員 ただいま全国中学校体育大会のチラシを配付させていただいたようですが、日程はまだこれ全部「17日から24日」ということで違ってきておりますので、最初の多分資料だと思いますので、開かれるのはあるんですが、それぞれ会期はまだとなっておりますので、お間違ひのないようお願いしたいと思います。

○前田会長 何か御質問等ないでしょうか、よろしいでしょうか。

それでは、ただいまの内容につきましては、御意見等ないようではございますけれども、せっかくの機会ですので、もうしばらく時間がありますので、全体的なスポーツ推進計画ですとか、県の施策等について何か御意見、御質問等ありましたら、お願いをいたします。今日まだ発言をいただいていない先生には、ぜひ何か一言でも御意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。よろしくお願ひいたします。

○小林委員 小林でございます。

これを見ますと、やっぱり小学校でもいろいろ取り組んでいるんですけれども、体力・運動力テストから見ると、やはり握力と、これに書かれたとおりボール投げですか、本当に低いんですね。本校も、これにぴったり合っているんです。それで、やっぱりそれぞれの学校では、毎年重点目標といういろいろな決めて取り組んでいます。実は本校でも、今度授業研究で、1年生ですからボール運動ではなくボール遊びになるんですけれども、的当てで授業をさせていただきます。仙台市内の先生方がうちの学校に来て、それぞれ御意見とか御指導をいただくんですけれども、やっぱり本当にこの差が大きいと思います。

要するに、学校の中ではそれぞれ教科としてはやっていますけれども、スポ少において野球、サッカー、本当に一生懸命な地域、それぞれにあると思うんです。うちの学校もそれに当てはまっているんじゃないかなと思って、非常に学校関係なく地域の中でのスポーツ少年団の中で、子どもたち本当に休みもなくかわいそうなくらいなんです。陸上記録会は終わったんですけれども、陸上記録会がメインなのかスポ少のそれぞれの土日の大会がメインなのか、何だかわかんないような感じになってきて、結果的にはスポ少で頑張ってきた力がある子が陸上記録会でも、体育の授業以外でのそれぞれ体力向上していただいたおかげで、少しはいい成績をおさめたという事実もあるものですから。本当に計画的に小さいときから運動ではなく遊びの中でやっていかなければならないなって、本当に感じております。学校でも、体育だけではなく業間の遊びの中で、うんていをしたり鉄棒を回ったり、これ体育の授業だけではなくて日常化というのが大事だなと、そんなふうに思っていたところです。済みません、以上です。

○前田会長 宮城県の体力の取りまとめをずっとしているんですけれども、2000年以降握力とボール投げが少しずつ落ちてきていて、震災後、特にその落ち込みが大きくて、この資料でもほとんどの学年でマイナスについていたりしていたんですけれども、これは実は宮城県はどちらかという得意な種目だったんですね、握力、ボール投げ等。低いとは言っても、全国で10番台のところもありますし、ほかのものは立ち幅跳びはもう47都道府県中47位というようところで低かったんですけれども、その得意なところが今マイナスの方向になってき

ていますので、これちょっと心配だなと思っているところです。

プラス震災以降、仮設が建ったりとか運動する場所がなくて、シャトルランとかそういう持久力関係、走るとかそういうところが大きく落ちるのかなと思いましたが、そういうところは割に逆に伸びたりしていることもあって、そういう意味で学校の先生方がとても頑張っているんだなというふうに見えるんですけども。世の中全体が萎縮しているといえますか、子どもたちも思い切り外でボールを投げて遊ぶとか、ドッジボールをして遊ぶとか、そういうことが何かできていないなというような印象を受けます。

ですから、先生おっしゃったように体育の時間ももちろん大事なんですけども、それ以外の遊ぶところ、本当の意味の遊びというところがうまくできていない。栃木県の研究データなんですけれども、小学生でも外遊びの多いほど体力が高いというデータが出ていますし、それも1つの種目ではなくていろいろな種目を遊ぶ子ほど体力が高いという結果が出ていますので、今スポ少で大変だというようなお話もありましたけれども、1種目だけのスポ少ではなくていろいろな動きのできるスポ少になるといいのかなと思ったり。

それから、先ほど幼稚園でも、運動指導じゃなくて遊びというのが大事なんだというお話をしましたけれども、やはり小学校、中学校になってもスポーツも遊びとしてのスポーツですけども、自主的な活動としてのスポーツ、遊びというものをいかに定着させていくかということが大事なんだろうと思います。幼稚園では、私自身で毎日今年の4月から、園庭開放というのをやって、保護者の監視のもとで毎日30分から40分くらい外で自由に遊ぶようにしたんですけども、そうしますと子どもたち帰るのをいやがって泣くくらい楽しんで外で遊んでいるんですけども、そういう子どもたちの遊びが小学校に行ったときに「遊ぶよりも勉強しなさい」という話にだんだんなくなってって、実質的な遊びという機会がだんだんだんだん奪われてきています。それを何とか、部活動というのもやはり自主的な活動としての部活動をいかに維持していくのかという、そのあたりが今後大事になってくるのかなというふうに思います。

ちょっと長くなってしまいました。申しわけありません。

○佐藤委員 済みません、いいですか。

○前田会長 どうぞ。

○佐藤委員 我が町のほんの小さな課題とささやかな取り組みなんですけれども、ちょっとお話しさせていただいてよろしいでしょうか。

スポーツ人口を増やすということで、働く世代をどの様にもっていくかということですが、

この働く世代というのは子育て世代でもあります。平日の場合には家に帰ってきてから夜、町にあるスポーツ施設に行ってスポーツをするとすると、なかなか難しいものがあります。なぜかと言うと、学校教育において「早寝、早起き、朝ごはん」を掲げ、子どもたちの体力、学力を向上させようということで進めています。親が帰ってきた時間に、食事や親子の団欒とか、次の日の子どもたちの学校での生活のこと、それから親自身が次の日の仕事と考えたときに、平日というのはなかなか難しいと考えています。

そういう中で、「町民・1スポーツ」ということで、スポーツ人口を限られた人だけでなしに、広く進めていくためにどうするかというようなことを考えています。ささやかな取り組みではありますけれども、小さい子どもから高齢者まで、そんなに練習しなくても楽しくできるということで、「ペタンク」を推進し、各地域に広がりが出てきています。

先ほどドッジボールの話がありましたが、我が町では少子化になってきてから、ドッジボール大会もバレー大会も子どもに合わせた大会を実施しています。例えばドッジボールについては、低学年と高学年に分けてボールの大きさとかたさを工夫しています。そうすると、怪我もなく、小さな子どもでも楽しく参加するだけではなく、勝ち負けに対してはすごく本気になって取り組むんですね。終わった後のあの充実感というか表情を見ていると、こちらも楽しくなってきます。それから親子のバレーにおいては、低学年の部においては親はあまり手を出さずに、子どもを支える側に回っていただいて、ネットの高さも工夫しています。そうすると、1年生でも2年生でもちょっとジャンプしたくらいでも隣のコートにボールがいくので楽しんでやっています。小さな町ですのでどうしたらスポーツ人口を増やすかということで、今進めていることを本当にささいな取り組みですけれども、紹介させていただきました。

それから、「運動笑学校」の件なんですけれども、私の町では総合型スポーツクラブの「運動笑学校」をつくっています。町の体育館に勤めている職員が、こども園とか小学校のほうに講師として出向いています。こども園・幼児教育のほうについては、年に何回となく呼ばれており、自分たちで指導略案も書いて進めるくらいまでになってきています。園や学校においては、子ども達も先生も一緒に活動に関わり、楽しく安全な計画がされていて、いい方向にきていると思っています。

あと中学校のほうにおいては、水泳関係とか専門的な分野でお手伝いいただいています。もっと多くの種目に、もっと多くのボランティアも含めて、地域の方々がうまく関わられるような方向で、ほんの小さな取り組みでも、少しずつ少しずつやっていくことが一番なのかなというふうに思っております。以上でございます。

○前田会長 川崎町の、もう大変先進的などいいますか、ユニークな取り組みを御紹介いただきましたけれども、親子でというのはやはりとても大事なことで、幼稚園でも子どもたちだけで遊んでいる遊びの時間が終わっても泣く子はいないんですけれども、お母さんと一緒に遊びの時間が終わるといときには泣いていやがる子がいるんです。先生方には、「幼稚園の遊びも、泣いていやがるくらいできるといいですね」と話をしても、「それは、お母さんたちがいるからですよ」という話をいただくくらい、子どもを運動させるというときには親子でという取り組みがとても大事なのかなというふうに思います。

若い、働く世代をいかに取り組むかというときに、運動指導もそうですけれども、なかなか帰ってくる時間が遅くなって、そこからということになるとなかなか取り組めないというふうなことがあるんですけれども、聞けばアメリカなんかはそうなんですけれども、クラブチームの幾つかバスケットのチームができたときに、そのチームの指導者の中に必ず保護者が入ることという条件があるんですね。週3回、1回で1時間から1時間半くらいの練習、シーズン制ですので4カ月くらいで終わってしまうんですが、必ずそのチームに入っている子どものお父さんですとかお母さんで、例えばバスケットでしたらバスケットの経験者が必ず入ってくるんです。4時半とか5時くらいから必ず入ってきて、それはお父さんとかお母さんのいらっしゃる会社にとって、お父さんとお母さん、社員を派遣するということで地域貢献をしているというしっかりした位置づけができていますね。

ですから、そういう位置づけをもう少し、社会的にもできるといいのかなと。要するに、ただ単にボランティアとして保護者を派遣してくださいということではなくて、保護者を派遣するということが「会社が地域に対して貢献してもらっているですよ」という位置づけをしっかりとあげるとい仕組みができていますけれども。そういうことが日本でうまくできると、保護者を外部指導者としてうまく子どもたちの部活動に使えたりとか、そんなことができるんじゃないかなという気がするんですけれども、なかなか難しいですね。

どうもありがとうございました。

○安中委員 スポーツ少年団です。

現在、ここ2、3年先を含めまして、2つのちょっと大きな政策が考えられておりまして、1つは現在子どもたちの入団対象年齢が小学生以上となっておりますが、それをそれ以下に拡大するというのが1つでございます。それからもう1つは、障害を持った児童の受け入れも考えていきたいと思いますということで、現在それぞれどういう問題があるかいろいろ実験というか、子どもたちを対象にしながら問題点を探っている段階でございますが、ここ2、3年の間には

確実に通知等が入ってくる状況になっているところでございます。そうなりますと、やはり対象年齢が下がってしまうものですから、例えば活動場所への移動等の問題、あるいは障害児等の受け入れということで、保護者の方の協力を得ないとどうしても運営は難しいのではないかと思います。将来的に、幼児からスポーツに親しんでいけば、スポーツ好きな子どもたちの増加に、ある程度つながっていくのではないかと考えております。

○前田会長 どうもありがとうございます。

幼児は、どうぞ気をつけて入れていただければと思うんですけれども。幼児も含めた家庭のやはり環境といたしますか、子どもたちだけじゃなくて大人の環境づくりをすることで、幼児も小学生もその中に入っていけるような環境ができるといいかなと思います。どうもありがとうございました。

○松坂参事兼スポーツ健康課長

少年団の全国大会の宣伝を。

○安中委員 全国スポーツ少年大会という団員たちの全国大会が、来年8月1日から宮城県担当で予定されております。団員、スタッフ含めて400名規模の大所帯になる予定で、中心会場は花山にあります青少年自然の家ですか、あそこを全館貸し切りという形で確保してありまして、そこから例えば大きな会場があります田尻町の体育館での活動とか、それから南三陸町の震災現場の見学とかにも出かける予定で、3泊4日の日程で計画されております。

○富士原委員 富士原です。私ハンドボールの外部講師として、今高専のほうで学生の指導をさせていただいているんですけれども、ハンドボールという競技を通じまして、今、二極化といいますかマスターズのほうの人口といいますか人数が増えているということと、あと小学生の宮城県内も徐々にチームが増えてきておりまして、ただ寂しいことにその中間のチームはどんどん減ってきておりまして、またやる場所も少なく、そういったところがちょっと寂しい感じはあるんですけれども。

あと、私自身子どもが2人おりまして、今外部指導者という形でやらせていただいている、妻のほうから「また行くのか」と言われるんですけれども、一応外部指導員という形上認定していただいていますので、私は学生を教えるんだということで行くんですけれども、そういったところがもうちょっと制定されるといいなというふうになんかちょっと思っているところであります。

○前田会長 今外部指導に行かれているところからは、会社なりから派遣依頼みたいなものは。

○富士原委員 そうですね、委嘱状をいただいております、会社にも休みをいただいて公式な

大会とかも引率させていただいているんですけども。ほかの仲間内でも、ボランティアという形で行っている方もいらっしゃいますので、そういったところがもうちょっと制定されていけば、もうちょっとスポーツの仲間もふえていくのかなとは思っているんですけども。

○前田会長 ありがとうございます。

○日下委員 私は、日々スポーツ報道に関わっていて思うことなんですけれども、今回のこのアクションプランの成果と評価、丁寧な説明いただいてよく宮城の現状を知ったところなんですけれども、やっぱりよく新聞記事とかあるいはテレビの報道なんかで運動選手の話に出てくる言葉に、「震災がどうのこうの」とか「震災を乗り越えて」とかという、そういうような視点で話をする選手もいます。あるいは、子どもたちで運動している子たちに話を聞いても、「震災から仮設のほうに行って、体育館が使えなくて別の中学校の体育館を使ってやった」とかね、そういうのってあるじゃないですか。また、お年寄りについても同じことが言えるのかなと思うんですね、震災の影響というのはよくあるんだろうと思うんです。

ですから、このアクションプランの成果と評価の中に、やっぱり震災がどういうふうな影を差したのかという分析するものが、やっぱりあってしかるべきなんじゃないかなと思うんですね。山形とあるいは秋田と、どこがどういうふうにこの宮城は違うのかというと、やっぱり震災の影響というのはそれは避けて通れないものなんだろうと思うんですね。これまでも、各委員からも震災の話が出ましたけれども、そこをもう少し震災に本県宮城のスポーツがどういうふうな影響を受けたのか、そして未来図を描いていくためにはどんなふうな視点が必要なのか、そこらあたりはもう少しこの計画を推進していくために必要なことなのかなというふうなことを感じました。

あともう1点、全然違う話なんですけれども、五輪について合宿地とか、福岡のほうなんかでは早々とスウェーデンとかと調印とかしましたけれども、宮城のところではどうなんですか。そういうような動きというのは、県のほうで把握している限りでは。

○武者スポーツ振興専門監 福岡みたいな形で大々的にというのはまだないんですが、先ほど申し上げた登米のほうにボートのアイエスの施設がございますので、そちらのほうで登米市とボート協会のほうでちょっと当たっているとか、あと栗原が陸上のホッケーですね、力を入れていらっしゃいますので。そういった形も少しずつ出てきておりましたので、先ほど申しあげました11月10日に、ちょっと市町村を集めて会議をして、興味のある市町村はちょっと一緒にやっっていこうかというふうな形のことを開いていこうかと思っています。あと私どもも来年、実現可能性のある施設などをちょっとさらに確認して、やれる範囲でやっっていこうかと思って

おるんですけれども、なかなか震災復興しながらなので、被災した沿岸の市町などは難しいところもあるのかなとは思ってはおりますけれども。

ちょっと今年、来年かけて、いろいろとやれることをやっていきたいと思います。

○前田会長 ありがとうございます。

平塚さん、いかがでしょうか。

○平塚委員 今、いろいろと皆さんのお話をお伺いさせていただいて、我々もやることが、どういったことに集中してやっていくべきかというのは、ちょっと今悩んでいるところであります。

この問題については、今いろいろな委員の方々からお話をいただいて、1つだけちょっと冒頭にお伺いしたいんです。よく「地域」という、今県のほうからのお話にもありました「地域」という表現は、市町村を指しているのか、それとも小学校区とか中学校区レベルの単位なのか、その辺ちょっとだけ県のほうで資料の作成上押さえているのか、それをお伺いしてからちょっと質問させていただきたい。

○前田会長 いかがでしょうか。

○松坂参事兼スポーツ健康課長 大変済みませんが、特定の概念ではないんですけれども、基本は市町村かなとは思っておりますけれども、例えば運動部活動の地域の連携を考えるというふうなことで、我々の概念とすれば先ほど申し上げました、どちらかというところを考慮しております。ただ、市町村によっては大分中学校、1町1中学校とかというような話も出てまいっておりますので、そういったところで押さえているところでございます。

○平塚委員 済みません、もう1つちょっと。あとこういったデータ等々も含めて、各教育事務所、さっき課長さんのほうで7教育事務所、仙台市教育委員会は、このデータには反映していないという押さえでよろしいんですか、データも含めて。

○松坂参事兼スポーツ健康課長 子どもたちの体力向上には、仙台市のデータも入っております。

○平塚委員 ああ、そうですか。

それで、ちょっと1つ。まず外部指導者というお話をよくお伺いをするんですけれども、外部指導者については中学校の部活等々のお手伝いをするのであれば、中学校区レベルでやる。そうすると、中学校区という地域と学校の連携をする環境づくり、これを早急に進めなくちゃいけないなど、我々スポーツ推進委員も、当然役割上そこに入ってそういったことを早急に立ち上げなくちゃいけないんだろうなという、今考えています。

あと、体力検定等々については、小学校については仙台市は我々教育委員会と連携しまして、

私どもスポーツ推進委員300名強いるんですけれども、毎年派遣してやらせていただいています。その話をみんな持ち寄って話を聞く会があると、やはりやり方、テクニックが必要なものといったらやっぱりボール投げ、立ち幅とび、そういったものについては事前のちょっとした指導で全然数字が違ふ。例えば、午前中にやり方を教えて、お昼ころにちょっとボールを投げたら、もう最初にやったときと全然数字が違ふ。ということは、やはりその体力検定1つにしても外部指導者というか、ある程度の指導をしていく。機会があれば並行してやっていく、そういった環境づくりが当然必要なのかなと。そして、子どもの数字を上げていく。

ただ、子どもが数字上がっただけで、それがイコールスポーツ好きになるという保証がないものですから、それをどういう形でほめていってスポーツのほうに目を向けさせるかということが必要なのかなと。これも我々外部指導者というか、指導者としての問題だろうなというふうに思っています。

それから、外部指導者についてなんですが、これ自分たちも含めてです、当然。資格というのは、特に今外部指導者というのは、日体協でやっているもの以外はないんですよ。そうすると、問題は資質の問題なんですよ、外部指導者の資質。さっきおっしゃったんですけれども、どうしてもスポーツで古い考えの指導者がいまして、今のそういうスポーツの実態とちょっと乖離している部分。やはりそうすると、外部指導者と指導者を派遣される側とのやっぱりミーティングというか、そういう組織づくりも今後必要になってくるのかなというふうに私的には考えています。当然役割ですから、我々がそれに率先して関わっていくことは、必要なことだというふうに思っています。

そのためにも、ひとつ教育委員会のほうにお願いをしたいと思っているんですが、これはあまりいいのかな、まあいいね。私どもスポーツ推進委員、法律で置きなさいということになっているんですが、宮城県は残念ながら多賀城市、任命していません。それを前にもちょっと教育委員会のほうにお願いしたんですが、何か機会あるごとにぜひそういった意味では任命をするように、多賀城市の教育委員会に御指導いただければというふうに考えています。

この間専門監にも来ていただいたんですが、私どもが主催して宮城県の家庭バレーボールの宮城県大会、大体ヘルシーで予選をして、県大会をやらせていただいているんですが、県も共催していただいて。たまたま多賀城市から、ヘルシーで仙台地区で優勝したのが多賀城で、多賀城が出場して、それで全県で優勝しました。そのときに、主管がスポーツ推進委員ですから「何であそこ入れるんだ。多賀城はスポーツ推進委員が誰もいなくて、何にも協力していないんじゃないか」と。やっぱりそういう権利と義務じゃないんですけれども、そういった義務をき

ちっとやっていたくのもスポーツの底辺拡大には必要だろうというような声が上がっていき、  
「まあ、今そんな細かいこと言うな」と、こういうことを期に、スポーツ推進委員をもし  
かしたら任命してくれるかもわからないと、そういう話がありましたので、その辺についても  
御配慮いただければ。

あと、もう一つ最後に、私ども昔教育委員会から任命いただいたときには、いろいろな研修  
会とか会議に職専免というんですかね、所属する会社なり役所に教育委員会から「この方を派  
遣してくれ」というような文書が出たんですよ、昔は。それが最近では仙台市も含めてですが、  
出ていないところが多いんですよ。そうすると、今木曜日、金曜日あたりの研修会でも「会社  
休んでまではね」ということで、逆に言うと任命権者である市町村なり市町村教育委員会から  
「あなたの会社のこの方を派遣してほしい」という文書があれば、出やすいんですよというよ  
うなことがありました。ぜひ、何かの機会に教育委員会のほうに、関係部署に教育委員会のほ  
うで御指導いただければありがたいなと思いましたので、これはお願いします。

○前田会長 どうもありがとうございます。大変貴重な御意見、ありがとうございます。

それでは、そろそろ予定の時刻過ぎてしまっていますけれども、これで意見交換を終了した  
と思います。よろしいでしょうか。

それでは、御協力いただきましてどうもありがとうございます。

以上をもちまして、本日の議事の全てを終了させていただきたいと思えます。

事務局にお返しいたします。

## 6 閉会

○司会 前田会長、議事進行大変ありがとうございます。

長時間にわたりまして、委員の皆様方御審議いただきまして、ありがとうございます。

以上をもちまして、第1回宮城県スポーツ推進審議会すべてを終了させていただきたいと思  
います。

本日は大変お忙しい中、ありがとうございます。